



## ネット依存への入り口は小学生から？

校長 永井 有司

盛夏の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、先日『小学生でも深刻な病的ネット使用』という記事を読む機会がありました。「安心ネットづくり促進協議会」という組織が調査を進め、小・中学生における病的なインターネット使用の実態についてまとめてありました。調査協力した弘前市では、病的使用者と不適切使用者が、小学生では、3.6%と9.4%の計13.0%、中学生が各7.1%と15.8%の計22.9%でした。これは、小学生でも各クラス4～5人は問題のあるインターネット使用者がいるという計算になります。

それでは、一体本校の現状はどうなっているのだろうかと平成29年度に実施いたしました学習状況調査の結果を見てみました。「普段（平日）、1日あたりどれくらいテレビゲームをしますか」という問いに対する回答状況は下のグラフのようになりました（昨年度調査）。そして、2時間以上使用している児童は右図です。



=2時間以上使用児童=	
1年:	13.9%
2年:	16.6%
3年:	43.8%
4年:	38.5%
5年:	46.6%
6年:	38.5%

3年生から急に増加し、6年生以外の学年は、さいたま市平均より時間が長くなっています。これは学校から帰宅後の時間ですから、驚くべき数字に見えます。4時間以上の児童もいますし、明らかに勉強している時間よりもゲームをする時間の方が長い児童がたくさんいるということになります。弘前市の場合、心理的な調査なので一概に比較はできませんが、「少なくとも本校にも予備軍がたくさんいるのではないかと心配になってしまうようなデータです。過日、土曜公開日（6/9）でも5年生児童とその保護者対象に「携帯・インターネット安全教室」を実施しましたが、ネット犯罪に巻き込まれることだけでなく、病的使用者になる可能性もあると危惧せずにはおられません。



1学期が終わりますと、夏休みがやってきます。自由に使える時間が増える分だけ、インターネットの使用時間も増える可能性も高くなります。将来、病的な使用者にならないように、各ご家庭で今一度、インターネットやゲームを使用する時間について話し合ってみてはいかがでしょうか。

